

# 平成27年度 町政執行方針 (要旨)

平成27年第2回置戸町議会定例会において、井上久男町長が示した町政執行への基本的な考え方についてお知らせします。



置戸町は、大正4年4月1日に野付牛村から分村して、100周年の節目の年を迎えます。多くの町民の皆さんとともにお祝いし、新たな100年のスタートにふさわしい記念事業を開催してまいります。

昨年11月、50年後の日本の人口を1億人程度確保することを目標に、「まち・ひと・しごと創生法」が成立いたしました。本町においても、人口減少対策は最重要課題となっていることから、人口の現状分析と将来展望を見極めるための「地方人口ビジョン」および、活力ある地域社会実現のため「地方版総合戦略」の策定を進めてまいります。

本町における財政見通しは、人口減少や景気の減速による町税の減少、地方交付税の別枠加算の縮小などにより、財源確保が厳しさを増しています。歳出においても、円安などの影響から資材費が高騰し、物件費や維持管理経費のほか投資的経費における事業費の増加も懸念されます。

平成27年度予算編成にあたっては、持続可能な財政運営を基本に、限られた財源の中で重要度・緊急度の高い事業の選択と重点化を優先し、財政の健全性の維持と取り組むべき課題の着実な実現を目指す予算内容といたしました。

## 活力あふれる豊かなまちづくり

**激**しい環境の変化と資材費や飼料の価格高騰など厳しい情勢の中、農地中間管理機構制度などの有効活用と、人・農地プランの見直しを進め、より効率的、効果的な農地の利用集積と経営の安定化を図ってまいります。

また、農業経営の効率化、安定化の手法としてコントラクター事業の導入や、新たなTMRセンター、農業生産法人の設立に向け、農業者や農協などの関係団体と連携を図りながら協議を進めてまいります。

ここ数年、干ばつや異常気象による生育期の水不足が大きな課題となっております。この課題解決に向けて、本町においても畑地かんがい排水施設の設置に向けた協議を開始いたします。

道営事業では、土地改良事業および町道春日川東線の改良舗装工事に着手いたします。また釧北牧場の草地更新事業は、本年度で事業が完了いたします。

酪農関係では、昨年度、町内において、牛サルモネラ症が発生いたしました。今後、家畜自衛防疫組



大規模改修が計画されている「勝山温泉ゆうゆ」

合との連携により、家畜伝染病の防疫体制のさらなる強化に努めてまいります。

農林業に大きな被害を及ぼすエゾシカについては、本年度も、鳥獣被害防止対策協議会と連携し、補助制度を有効に活用しながら有害鳥獣駆除の推進に努めてまいります。

林業関係では、将来の担い手となる若年労働者不足が懸念されている林業労働者対策として、町独自